

男児遺棄見逃した行政

厚木縦割り解消機能せず

神奈川県厚木市のアパートで斎藤理恵君(当時2歳)の白骨遺体が見つかった事件では、亡くなる前から市や児童相談所が異常に気づきながら情報共有せず、親の児放棄を見逃していた。縦割り行政解消のために設けた組織も機能していなかつた。

2003年6月、当時2歳の理恵君への児童手当の支給手続きが途切れた。前年までは父親名義の申請書類が市に提出されていた。

市の市民健康部も3歳6ヶ月健診の未受診を把握。だが、いずれの情報も部課内にとどまった。

厚木児相は04年10月、午前4時に裸足に紙おむつ姿で路上にいた理恵君を保護した。体のあざも母親を嫌がるそぶりもなく「迷子」と判断した。剣持道子副所長は指摘する。

神奈川県警によると、理恵君は06年10月~07年1月に死亡したと推定される。

所在不明の子 神奈川県49人

神奈川県は10日、県が管轄する五つの児童相談所(横浜、川崎、相模原、横須賀市を除く)で支援の対象にしている子どものうち49人の所在が確認できていないと発表した。厚木の事件を受け、緊急調査していた。49人中37人は地域住民の通報などを端緒に児相が虐待の可能性がある事案として取り扱っている。今後、警察などと連携して所在確認を進める。

5児相の支援対象児童は3095人。厚木の事件では父親が市の調査に「子どもは生きている」と虚偽の説明をしていたため、10日時点で本人や、家族以外の第三者から所在を確認できていよい子どもの数の報告を求めた。

県子ども家庭課の菊池正敏課長は記者会見で「事件の教訓として子どもの安全確認を第一にやっていく」と話した。

遺体発見まで7年以上、放置されたいた背景にも行政

09年4月の再改正では、虐待リスクも把握できるよう

再改正後の昨年5~10月、市教委はアパートを計

O法人「シンクキッズ」の

後藤啓一代表理事は「具体的な情報の共有も求められた。

虐待防止に取り組むNPO法人「シンクキッズ」の

09年4月の再改正では、虐待リスクも把握できるよう定期健診が未受診など、虐待の判断に至らない

3月、理恵君が小学校に通学していないことを確認

3月、理恵君が小学校に通学していないことを確認

6回訪問。いずれも留守で同年12月には父親と勤務先

正児童福祉法で、市町村が虐待と認識する子どもの情報を見などと共有するための「要保護児童対策地域協議会」(要対協)を設置する努力義務が盛り込まれた。厚生労働省によると、

の連携不足がみられる。

05年4月に施行された改

正児童福祉法で、市町村が

虐待と認識する子どもの情

報を見などと共有するた

めの「要保護児童対策地域

協議会」(要対協)を設置する努力義務が盛り込まれた。厚生労働省によると、

の連携不足がみられる。

05年4月に施行された改

<p